HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日韓漢語動詞における通時的対照研究［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	趙, 恵真
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12957号
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70219
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Cho_Hyejin_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　氏名：　趙　恵　真

主査　准教授　李　　連　珠
審査委員　副査　教　授　池　田　証　壽
副査　教　授　野　村　益　寛

学位論文題名
日韓漢語動詞における通時的対照研究

・当該研究領域における本論文の研究成果

本研究は、日韓語漢語動詞に対する対照言語学的考察を行うために、歴史的文献資料から現在使用されている言語資料まで申請者が長い間収集した豊富なデータに基づいて、各時代における両言語の漢語動詞の形態的特質を捉えている。漢語動詞の形成されるプロセスや漢語動詞の形態変化の様相までを明らかにすることができ、さらに日韓語漢語動詞の類似点や相違点を浮き彫りにしながら、その特質についても深い考察が行われており、両言語の漢語動詞の形態的特質を網羅して記述したものである。

本論文の特記すべき研究成果として、以下に述べる４つの点をあげることができる。

先ず、本論文での漢語動詞に対する捉え方として、「動作性を帯びて述語的な意味をあらわす漢語に、実質動詞としての語彙的意味よりは主に文法的意味を持っていると思われる機能動詞（代表的なものがスルと hada）が組み合わさって形成されているもの」であると定義づけることにより、日韓両言語の漢語動詞に対して一貫した共通の捉え方による考察を可能としたことである。

２つ目は、考察対象を二字漢語動詞のみでなく一字漢語動詞にまで広げることにより、漢語動詞の残存と消滅に固有語の類義語の存在の有無が深くかかわっていることを明らかにしたことである。韓国語においては従来、固有語が消滅し漢語がそれに代用されることが目立つ現象として知られているが、本論文ではそれとは逆に固有語動詞が一字漢語に対して優勢であったことを示したことにより、今後新たな考察への可能性を提示できたと考えられる。また、一字漢語動詞は二字漢語動詞より、漢語と後部の「スル」、「hada」との形態的結合力が強いことを、否定の活用形における語形変化の形から具体的に示せたことも評価できる点である。

３つ目は、表面上「hada 形」漢語動詞と同じであることから、従来「漢語動詞」との区別がはっきりされてこなかった韓国語における「漢語形容詞」に対して、意味と形態的特質の両面から「漢語動詞」と区別した定義を与え、日本語との対照的観点を取り入れてその形容詞性を測ったことも興味深い。さらに、韓国語漢語形容詞に対応する日本語「スル形」に対してもアスペクトテストを用いた分析の結果から、形態的には動詞として現れているものの、前部要素の漢語が状態性のアスペクトを持っているか、あるいはアスペクトがあらわれていないということが確認でき、漢語動詞における前部要素の漢語とは差があることを明らかにした。

最後は、本論文に付録として付けられている資料そのものに対する評価である。資料には、申請者の分析結果までが綿密に記されており、今後関連する研究において貴重な通時的コーパスとして利用できるものである。

・学位授与に関する委員会の所見

審査では、以上で述べた評価できる点以外に、日本語の文献資料が文学的性質を帯びているものに偏っていることと、日本語の細かい瑕疵が多々現れていることが指摘されたが、これらはどちらも本論文の評価を大きく下げるものではない。また、申請者は，既に国内外の学会において６件の口頭研究発表を行っており，その成果を論文３編にまとめて公刊している。

以上の審査結果から、本審査委員会は全員一致で趙恵真氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。